第一ライフ資産運用経済研究所
Daiichi Life Group

2026 年 11 月

【1 分解説】オルタナティブ投資とは?

資産運用調査部 シニア研究員 河谷 善夫

オルタナティブ投資とは、上場株式や債券といった伝統的な投資対象とは異なる資産や運用手法への投資を指します。代表例には不動産、未公開株式、インフラ、ヘッジファンド投資等があります。オルタナティブとは「代替的」という意味です。

ただし、不動産投資は古くから行われており、決して新しい投資ではありません。ここでいう「代替的」とは、投資の歴史が浅いという意味ではなく、市場で資産運用の中心をなしてきた上場株式や債券とは収益特性が異なり、またリスク分散の観点で補完的な役割を果たすことを意味します。

欧米では 1980～90 年代に年金基金などが投資対象を多様化させ、日本でも 2000 年代初頭、株価低迷や超低金利を背景に、新たな収益機会の確保とリスク分散を図るべく、オルタナティブ投資が広がりました。

近年は、銀行融資を補完するプライベートクレジットや脱炭素化を目的に整備が進む再生可能エネルギー等へのインフラ投資にも注目が集まっています。いずれもファンドが投資家から集めた資金を企業への融資や施設への投資に振り向ける仕組みが中心です。

オルタナティブ投資はリスク分散や収益向上の効果が期待される一方、リスクの見積もりが難しいもの、換金に制約があるものや仕組みが複雑なものもあります。投資には対象の特徴やリスクを理解することが大切です。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。